



「ひょうご基幹道路のあり方」について



～ 2050年の基幹道路ネットワークの目指すべき姿～

兵庫県 県土整備部 土木局 道路企画課

1. はじめに

兵庫県の基幹道路は、50年以上前の1963年に、日本初の高速道路である名神高速道路（栗東～尼崎）が開通し、その歴史がスタートしました。1986年に、県は、東西3本、南北3本の基幹軸からなる「高速道六基幹軸」（図1）を策定し、計画的に整備を進めてきました。

基幹道路ネットワークは、「地域産業の活性化」や「交流の拡大」、「緊急輸送機能の確保」、「交通安全の向上」など様々な役割を担い、雇用の創出や教育、医療など県民の生活を幅広く守り支える基礎的な社会基盤として、県の発展に大きく貢献してきました。

一方、2018年、県は県政150周年の節目を迎え、人口減少、少子高齢化に適応しながら、新たな価値観や多様な県民ニーズに対応できる新しい地域づくり、地域創生へ挑戦を始めます。このような地域創生の実現を支えるため、2018年3月に、概ね30年後の2050年の基幹道路ネットワークの目指すべき姿を示した「ひょうご基幹道路のあり方(以下、「あり方」という。）」をとりまとめましたので、紹介します。

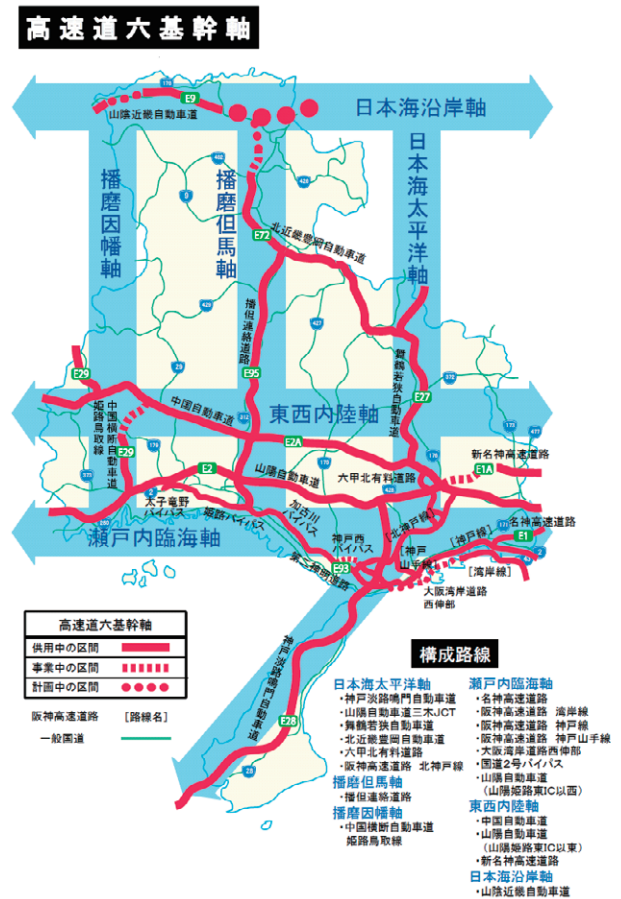


図1 高速道六基幹軸 (～2018.2)

2. ひょうご基幹道路あり方検討委員会

幅広い議論のもとに「あり方」をとりまとめるため、学識者、道路利用者、行政による『ひょうご基幹道路あり方検討委員会』を設置し、合計4回（2017年7月、10月、12月、2018年3月）の委員会を開催しました（写真1、表1）。

検討にあたっては、全県での検討のほかに、県内がかつて五つの国（神戸・阪神（摂津）、播磨、但馬、丹波、淡路）に分かれていたことから、五国毎に検討し、将来像を想定しながら、現状と課題を整理し、政策目標を設定しました（図2）。

また、県内41市町や道路利用者へのヒアリング、パブリックコメン



図2 兵庫五国

トを経て、2018年3月に「あり方」をとりまとめ公表しています。

なお、「あり方」や委員会資料は、県のホームページからご覧いただけます。

(ひょうご基幹道路のあり方 <https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks08/arikata.html>)



写真1 ひょうご基幹道路あり方検討委員会
第1回(平成29年7月21日)

表1 ひょうご基幹道路あり方検討委員会 委員名簿
委員

氏名	所属・役職等
◎角野 幸博	関西学院大学総合政策学部教授
宇野 伸宏	京都大学大学院教授
小池 淳司	神戸大学大学院教授
今西 珠美	流通科学大学教授
宇田川 真之	人と防災未来センター研究主幹
中林 志郎	兵庫県商工会議所連合会専務理事
志智 宣夫	兵庫県商工会連合会会長
糟谷 昌俊	兵庫県県土整備部長

◎：委員長

オブザーバー

橋本 雅道	国土交通省近畿地方整備局道路部長
-------	------------------

[事務局：兵庫県土整備部土木局道路企画課]

3. 「ひょうご基幹道路のあり方」

(1) 目標年次と基幹道路の定義

「兵庫県地域創生戦略」など県の他の計画とも整合を図りながら、目標年次・定義を以下のとおり定めました。

○目標年次：2050年(概ね30年後)

○定義：「自動車専用道路など一定のアクセスコントロールがなされた走行性の高い道路」

なお、検討対象である基幹道路については、兵庫県内(神戸市含む)における国直轄事業や有料道路事業、事業主体が未定の事業など、県以外が事業主体の基幹道路も含めて検討の対象としました。

(2) 基幹道路ネットワークの役割

基幹道路ネットワークは、安全・安心で活力ある地域づくりを支える基礎的な社会基盤であり、基幹道路が担う役割を次のように整理しました。

○物流・輸送の効率化や企業立地の推進等による「地域産業の活性化」

○県内外の広域的な地域間連携や観光拠点の周遊性強化等による「交流の拡大」

○災害時の代替路確保や救急医療の速達性強化等による「緊急輸送機能の確保」

○大型車や通過車両の生活道路からの分離等による「交通安全の向上」

(3) 基幹道路ネットワークの分類

基幹道路は、広域的なネットワークとして繋がることにより、その機能がさらに強化されます。現在の基幹道路ネットワークについて、適切に維持修繕・更新を行い、その機能強化も図りながらネットワークを構築することが必要であり、今後必要となる基幹道路を目的などに応じて次のように分類をしました。

○今後順次整備を進める基幹道路（2050年（概ね30年後）までの完成を目標）

①生活基盤型：地域間の連携など、広域的な交流を促進し、全ての地域が持続可能な地域づくりを進める上で必要な基幹道路

②地域基幹型：臨海部など交通が集中する地域の交通容量不足を解消し、地域の経済活動などを支える基幹道路

○構想路線：社会経済情勢等の変化に応じて、整備の検討が必要な基幹道路

（現時点では、整備の必要性は高くないが、今後の社会経済情勢等の変化に応じて、整備の検討が必要な基幹道路）

(4) 政策目標と基幹道路ネットワークの目指すべき姿

各地域や道路の現状と課題、将来像、市町などの意見聴取等を踏まえて、「人口減少対策」、「産業活性化」、「観光振興」、「災害への備え」、「地域医療の充実」など、基幹道路ネットワークと関係が深い項目について、地域ごとに政策目標

（地域の課題解消や将来像の実現に向けて取り組むべき目標）を具体的に設定しました（表2）。

地域ごとの政策目標を達成するために、基幹道路ネットワークの目指すべき姿を示した上で、「今後順次整備を進める基幹道路」を具体的に整理しました。また、「構想路線」については、市町・道路利用者、あり方委員会などの意見の中から、政策目標の達成に繋がるものを位置づけました（図3）。

表2（参考）播磨地域の政策目標

項目	政策目標	基幹道路ネットワークの目指すべき姿
人口減少対策	○神戸・阪神など県内外各地域との移動時間の短縮や走行性の向上	・播磨～神戸・阪神地域間のダブルネットワークの確保
産業活性化	○「播磨臨海地域」や「播磨科学公園都市」のポテンシャルを生かす、神戸・阪神方面との物流機能の強化 ○神戸港等との連携強化	・丹波地域と瀬戸内海沿岸部の基幹道路によるダブルネットワークの確保 ・空港・港湾との連絡の強化に繋がるネットワークの拡充
観光振興	○地域の観光拠点間の連携やひょうごゴールデンルートなどの広域周遊ルートの利便性向上	・災害時におけるリダンダンシーや医療施設への速達性確保に必要なネットワークの確保
災害への備え	○山崎断層による地震等の大規模自然災害に備えた緊急輸送道路のリダンダンシー確保	・スマートIC等の設置による基幹道路の機能強化
地域医療の充実	○相互搬送を実施している丹波地域や3次救急医療施設への移動時間の短縮	・東播磨道の4車線化による走行性の向上

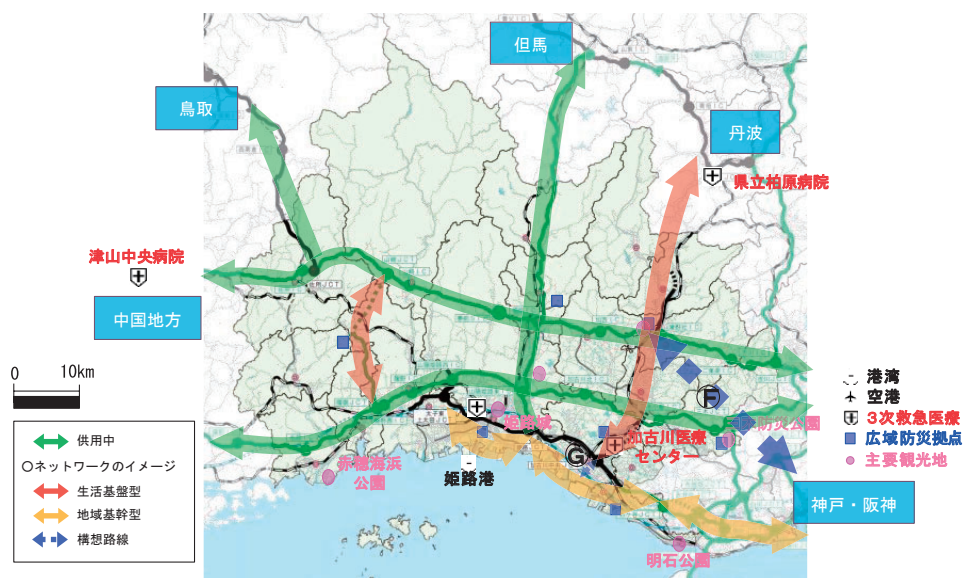


図3（参考）播磨地域の基幹道路ネットワークの目指すべき姿

(5) 基幹道路八連携軸とひょうご基幹道路ネットワーク 2050

既存の基幹道路ネットワークと「今後順次整備を進める基幹道路」について、東西と南北それぞれ四本の基幹道路軸があることから、「基幹道路八連携軸」と決めました（図4）。なお、「基幹道路八連携軸」の構成路線は、表3のとおりであり、「高速道六基幹軸」に、新たに、東西軸1本（播磨臨海地域道路等）と南北軸1本（東播丹波連絡道路、東播磨道）を追加したものをイメージしています。

また、「基幹道路八連携軸」と「構想路線」をあわせて、「ひょうご基幹道路ネットワーク 2050」と決めました（図5）。

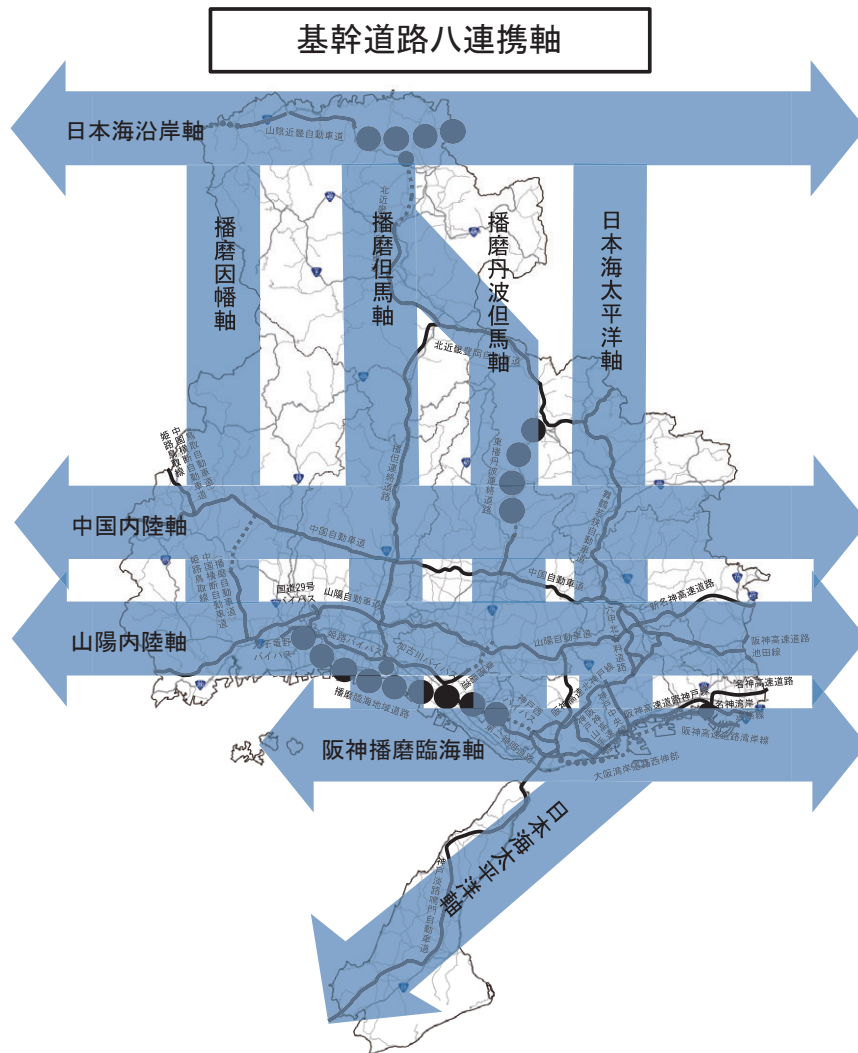


図4 基幹道路八連携軸

表3 基幹道路八連携軸の構成路線

東西構成軸	構成路線	高速道六基幹軸	南北構成軸	構成路線	高速道六基幹軸
①日本海沿岸軸	山陰近畿自動車道	○	⑤播磨因幡軸	中国横断自動車道姫路鳥取線	○
②中国内陸軸	中国自動車道（神戸JCT以西） 新名神高速道路	○ ○	⑥播磨但馬軸	北近畿豊岡自動車道（和田山JCT以北） 播但連絡道路 東播磨道	○ ○ ○
③山陽内陸軸	中国自動車道（神戸JCT以东） 山陽自動車道 阪神高速11号池田線 国道29号バイパス	○ ○ ○ ○	⑦播磨丹波但馬軸	東播丹波連絡道路 北近畿豊岡自動車道（和田山JCT以南） 舞鶴若狭自動車道	○ ○ ○
④阪神播磨臨海軸	名神高速道路 阪神高速3号神戸線 阪神高速5号湾岸線 阪神高速31号神戸山手線 大阪湾岸道路西伸部 第二神明道路 神戸西バイパス 名神湾岸連絡線 国道2号バイパス 播磨臨海地域道路	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	⑧日本海太平洋軸	神戸淡路鳴門自動車道 阪神高速7号北神戸線 阪神高速32号新神戸トンネル 六甲北有料道路	○ ○ ○ ○

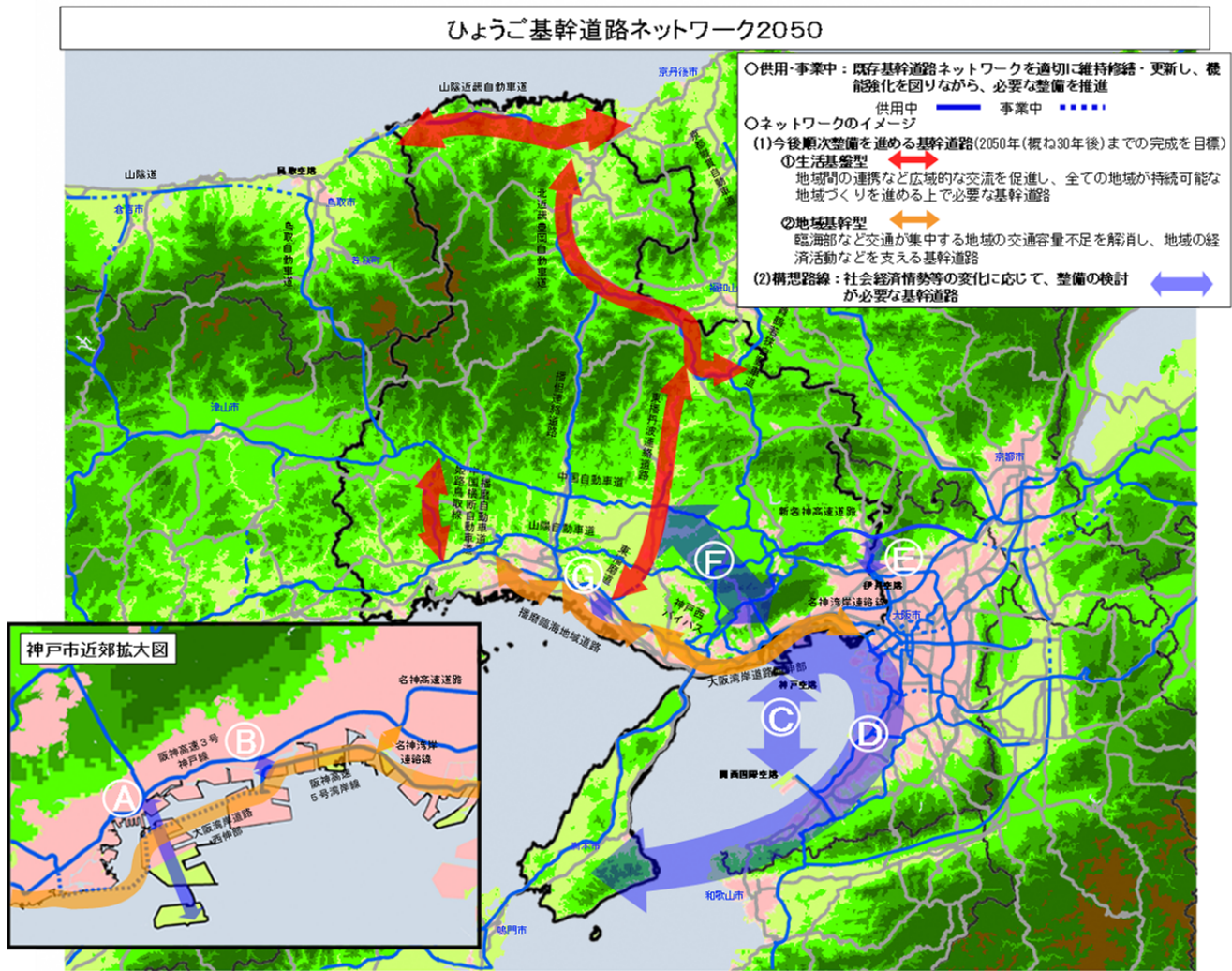


図5 ひょうご基幹道路ネットワーク 2050

(6) 留意すべき事項

基幹道路ネットワークの整備にあたっては、道路利用者の視点に立ち、既存の基幹道路ネットワークの有効活用や機能強化などにより、賢く使う取り組みを推進することや2車線区間対策や防災・減災対策、老朽化対策などによる、安全・安心の確保に取り組むなどについて、留意すべき事項として整理しました。

また、整備や維持修繕・更新にあたっては、財源を安定的に確保する必要があり、受益と負担の関係も考慮した上で、有料道路事業も活用しながら、財源確保を検討していきます。

4. おわりに

これまで兵庫県内の基幹道路ネットワークは、一定の整備がなされてきましたが、県内各地にはミッシングリンクや深刻な渋滞などの課題が依然として残っています。

既存の基幹道路ネットワークの有効活用や機能強化を図るとともに、適切に維持修繕・更新を行い、次世代に良好な資産を引き継ぐことや、これからの社会に求められる形の基幹道路ネットワークの整備や検討を進めることにより、今後も、基幹道路ネットワークが、兵庫県の未来を拓き、地域創生の実現に大きく貢献するものと期待しています。